

## 平成26年度全国高等学校総合体育大会テニス競技大会を視察して

平成26年8月20日 北海道旭川西高等学校 斉藤 充

私は、教員になったときから硬式テニス部の顧問になりたいという夢を持ち続けてきましたが、学校事情などで前任校も含めてなかなか叶わず、14年目の今年度、ようやくスタートライン立てた気持ちで日々生徒とコートに立てる喜びを噛みしめています。高校生の頃から一度は全国大会の舞台を見てみたいと思っていた私にとって、今回は、東京有明テニスの森公園にてインターハイの視察というまたとない機会をいただきました。北海道高体連専門部には深く感謝いたします。

試合観戦報告と視察から学んだことに分けて報告させていただきます。

### 1【札幌日本大学高等学校・男子団体戦の試合について】(平成26年8月2日・3日とも朝から30℃を超える猛暑でした)

<p>1R 対 海星(長崎) 2-1 (D 8-6 S1 3-8 S2 8-2) ★ ダブルスの報告 攻撃の展開が速く、札幌日大の2人はうまく平行陣を使い、 少しでも隙があればボレーで決めにいく展開であった。スピンを効かせた後衛のストロークとロブのバランスが効果的で、相手を戸惑わせていた。各ポイント毎に2人で作戦を立てて、次のポイントに備えていた。サービスゲームでは相手のバック側に跳ねるスピンサーブが有効だった。</p>	
<p>2R 対 名経大市邨(愛知) 2-1 (D 5-8 S1 9-8 S2 8-2) ★ シングルス1の報告 お互いに一步も譲らずのストローク戦で、ベースラインぎりぎりにボールコントロールし、8-7とリード。相手のリターンは正確さは最後まで続き、タイブレークに持ち込み、タイブレーク6-6からは札幌日大のサーブと回り込みフォアハンドで押し切り勝利、見事な戦いぶりであった。</p>	
<p>3R 対 東京学館浦安(千葉) 2-1 (D 8-4 S1 2-8 S2 8-6) ★ シングルス2の報告 3試合を通して丁寧にコースを狙う配球で、相手が我慢しきれない形に持っていく。札幌日大のタッチ系ショット(バックハンドスライスリターンやドロップショット、フォアハンドスライス)を巧みに使い、どこまでも粘ってポイントを取る姿に感動した。初日の3試合全勝は素晴らしい。</p>	

2日目の初戦4R(SF)は、四日市工業との対戦でここからは3セットマッチ、D、S1、S2(打切り)ともいずれも善戦したが、一步及ばず0-2で敗退。結果は、チーム力を存分の生かした結果の全国ベスト8に輝く快進撃、おめでとうございます。北海道出場校にとっても大きな励みとなりました。(結局、四日市工業はそのまま勢いに乗り、優勝でした。)

### 2【今回の視察から学んだこと・確認できたこと】

- (1) リターンで積極的に攻撃できる人はダブルス向き
- (2) ダブルスでは短いボール、シングルスでは長いボールが有効
- (3) スマッシュはシングルス、ダブルス問わず、ベースラインまで深いボールで練習させたい
- (4) 相手よりも1本多く粘ることができる。これは素晴らしい戦術。質の高いつなぎが大切
- (5) どの学校もダブルスでは2人でボール拾いをしながら次のポイントの作戦を立てていた
- (6) 補助生徒の素早い動き、潔い行動などコート外におけるマナーについても大変勉強になった

インターハイレベルでも、相手より1本多くコートに入れた方が勝つことが確認できた。現在、旭川西高校の男子テニス部の生徒は1・2年生で9名で、全員が高校生からテニスを始めた生徒達ばかりであるが、生徒自身がこの先どんなテニスを目指すのか、2年2ヶ月という限られた時間の中で、部活動顧問として、何ができるかを考え、個々の適性を見抜きながら指導していかなければならないと痛感した。

### 3 大会会場の様子

